

日本・アジア関係における議員外交

報告1 「日本の政党・政策集団・議員連盟による対中国の議員外交(2001年ー2012年)」

Karol Żakowski (カロル・ジャコフスキ)

(ポーランド ウッジ大学助教授、慶應義塾大学訪問研究員)

本報告では、2001年から2012年までの日中関係における議員外交の役割を分析する。特に、中国共産党と日本の諸政党との交流、政策集団・派閥による中国とのパイプ、日中関係に携わる議員連盟・日中友好7団体の活動を考察する。自民党と公明党は中国と太いパイプを持っており、与党の時に外交的危機を和らげることができた。一方で、21世紀に入ってから日本は中国とのパイプが細くなりつつあった。民主党は政策決定の内閣への一元化を掲げて、非公式ルートで十分に中国と折衝しなかったせいか、東シナ海危機が激化した。議員外交は政府外交を補完するもので、特に外交的危機の時にその役割は重要になるというのが、本報告の主な仮説である。

報告2 「自民党と日韓・日朝関係:冷戦下の党内対立と議員外交」

池田 慎太郎 (関西大学法学部教授)

冷戦下のアジアには、中国／台湾、韓国／北朝鮮、南北ベトナムという3つの分断国家が存在した。このため、与野党間だけでなく、与党自民党内にも深刻な対立が生まれ、日本のアジア外交は困難に直面した。よく知られているのは、蒋介石のいわゆる「以德報怨」に感謝し国民党政府を支持する「親台湾派」と、中国大陸に成立した中華人民共和国を承認すべしとする「親中国派」の相克である。

「2つの中国」をめぐる党内対立は、日本の朝鮮政策にも大きな影響を与えた。本報告は日韓・日朝関係をめぐる個人、派閥、政策集団、議員連盟などを紹介しながら、自民党の「親韓国派」と「親北朝鮮派」が展開した議員外交について検討する。

討論者 **井上 正也**(香川大学法学部准教授)

司会 **森本 哲郎**(法学研究所地域主権研究班研究員、法学部教授)

日時 平成25年5月11日(土) 14:00 ~ 17:00

場所 千里山キャンパス 児島惟謙館1階 第1会議室

- Karol Żakowski 先生の講演は日本語で行われます。
- 聴講自由 多数のご来場を歓迎いたします。
- 問合せ先 関西大学研究所事務グループ 〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-0329 / FAX 06-6339-7721
E-mail : hogakuken@ml.kandai.jp